

防大OB～現役自衛官の国際的活躍



海上交通の安全のために ソマリア沖・アデン湾派遣



第1海上補給隊司令

(前自衛隊神奈川地方協力本部長)

1等海佐 五島 浩司 (25期)

自衛隊神奈川地方協力本部長の五島です。私は25期生の海上要員で、卒業後約30年、護衛艦を中心に勤務してきました。私の勤務の特徴は海外への訪問・出張・勤務が多いことです。3回の遠洋練習航海で12カ国を訪問しましたし、RIMPACや米国派遣訓練などにも3回参加しました。イージスシステムに関しては米国留学を経て、イージス艦「ちょうかい」の装備認定試験をハワイで約3ヶ月間実施しました。防衛省防衛政策局弾道ミサイル防衛室勤務では国際会議(イギリス、オランダ)に参加し、日米共同分析業務でワシントンやハワイへ頻繁に出張しました。また、ソマリア沖・アデン湾における海賊対処活動では第1次派遣水上部隊指揮官を拝命しました。海賊は重装備であり、現場は高温多湿、砂塵が舞うという厳しい作戦環境ではありましたが、多くの外国海軍艦艇、航空機と連携しながら、ソマリアの海賊から日本関係船舶のみならず、多くの外国艦船も守るという大変やりがいのある任務を遂行することができました。

最近ではパキスタン国際緊急援助に派遣される等、海上自衛隊のステージは世界に広がりつつあります。現役学生の諸君、受験予定の皆さん、世界の海で活躍できる幹部海上自衛官を目指して頑張ってください！



陸上自衛隊幹部学校

1等陸佐 生田目 徹 (33期)

(元国連日本政府代表部防衛駐在官)

「未来は、過去と現在の延長線の上にある。」

卒研のテーマとして斜面防災（地すべり）を選んだ時に師より教わった言葉です。平成元年に防大を卒業してからこれまでの人生は、自衛隊が国際貢献活動に踏み出し、成果を積み上げてきた時間と重なっています。モザンビークPKOやイラク人道復興支援活動などの新しい任務についた時は、先輩達の様々な経験を参考にしつつ、目の前の状況での最適解を自ら考えて取り組みました。この夏までは、国際貢献活動の経験を活かしてニューヨークにある国連日本政府代表部の防衛駐在官として外交に携わりました。国連は各国の国益が激しくぶつかり合うところですが、軍人同士は現場での実行（アクション）を担ってきたというプライドを共有し、それぞれの経験を交換しながら国際社会の平和と安定の達成のために取り組むべきことを議論しました。

国防を担うということは、いざという時に粛々とアクションを起こせるように、経験と努力を積み重ねることだと思います。

これからも未来に向かうベクトルを意識しながら歩んでいきたいと思っています。



平成5年モザンビーク共和国
マプト市にて

タイ王国防衛駐在官

1等陸佐 土屋 晴稔（34期）

3人兄弟の長男である私が大学受験を控えた夏に、父親が病気で倒れ、進学を悩んでいる時、自衛隊で勤務した経験のある叔父が防衛大学校の存在を教えてくださいました。大学進学を諦めたくない自分としては、学生手当がありまた将来幹部自衛官としての道が開けている防衛大学校は、家族に負担の少ない理想的な学校でした。

防衛大学校の4年間はあっという間でしたが大変充実しており、専攻した電気工学、各種訓練、校友会活動を通じて多くの恩師、友に恵まれました。中でも校友会で選んだラグビー部では”One for All, All for One”という精神を教えられ、現在でも自分が日本や世界の平和のために何ができるかを考える素地になっています。また、初級幹部時、筑波大学の博士課程に進む機会を得られ、研究の日々から新しいものへの挑戦や幅広い視野等、幹部自衛官として貴重な経験をしました。

現在の職務である防衛駐在官は、各国の大使館に配置され、軍事に関する情報収集及び防衛交流の一端を担い、任国及び他国との信頼関係の醸成に努めています。

現在自衛隊は国際平和協力等で海外での活動も多く、他国軍との信頼関係構築は必要不可欠であり、防衛駐在官はその中心的な役割を担って勤務できる非常にやりがいのある仕事です。



「舞台は世界」 航空自衛隊特別航空輸送隊 3等空佐 奥村 清史（40期）

「防衛大学校を卒業したら、自衛隊でどんな仕事をするの？」一。防大進学を志す皆さんにとって、自分の将来像はとても興味のあることの一つではないでしょうか。

私は現在、航空自衛隊特別航空輸送隊に所属し、特別輸送機（通称：「政府専用機」）のパイロットとして勤務しています。

天皇、皇后両陛下や内閣総理大臣などの国賓等を世界の各地へ安全・確実にお運びすることが、特別航空輸送隊の主な任務です。また、PKO活動や国際緊急援助活動などでは人員・物資を空輸し、わが国が行う国際貢献の一翼を担っています。私自身、国賓等の空輸任務やPKO活動などで世界46カ国、延べ60カ所以上の都市を訪れました。フライトは緊張の連続ですが、それだけ達成感や充実感もひとしおで、職務に対するやりがいと誇りを強く感じています。

防衛大学校は陸・海・空自衛隊の幹部自衛官、リーダーとなる人材を育成する学校です。卒業後は現場の第一線で活躍することになりますが、その後は本省勤務などを経て、さらに上位の指揮官へとキャリアアップしていきます。また、海外留学・勤務、大学院への進学、外務省等への出向、企業研修など自己の能力を伸ばすチャンスも多数あります。

「日本の平和と国民の安全を守る」ことが自衛隊の役目ですが、自衛官の活躍の場は世界中です。好奇心旺盛で行動力溢れる皆さんが防大に入校し、近い将来、ともに勤務できる日を先輩として楽しみにしています。



「可能性を広げる」 航空自衛隊特別航空輸送隊 1等空尉 梅津 洋一（45期）

現在私は航空機整備幹部として特別航空輸送隊に所属し、特別輸送機（政府専用機）の維持管理に携わっています。当部隊の任務は特別輸送機2機を使用し主として天皇陛下や内閣総理大臣といった国賓等の輸送業務を任務としている部隊です。そしていざ国賓等の輸送時には私自身航空機に同乗し、世界中の空港にて航空機の健全性の確認や不具合等の速やかな修復に日夜努力しています。

そんな私は防大卒業後、戦闘機部隊にて現場指揮官として戦闘機の維持管理を担当し、その後は約2年間日本航空（JAL）において大型航空機の整備業務を研修し現在に至っています。このように卒業後は自分の希望次第であらゆる場面で活躍し、充実した日々を過ごすことになると思います。

また卒業から現在までを振り返ってみると、これまで実に多くの土地（ときには習慣や価値観の異なる組織）で、多くの人（ときには言語も通じない人）とともに航空機の整備という同じ目的を共有してきました。そのような様々な環境で互いの価値観を尊重し合い物事を解決していく姿勢は、まさに在学中の同期を始め先輩後輩との4年間に及ぶ切磋琢磨した共同生活から育まれたといえます。

皆さんも将来幹部自衛官としてあらゆる場面で活躍するため、防大で多くの仲間と苦楽をともにし、自分の可能性を広げてみてはどうでしょうか？



2007年 JAL研修にて



2008年 海外運航にて

ハイチ派遣国際救援隊

有意義な防大4年間 第13施設隊第383施設中隊
2等陸尉 森口 恭丞（50期）

1 現在の職務の内容

現在私は、施設科小隊長として、年間を通じて各種計画の作成や実行の監督、訓練等においては現場の長として勤務しています。責任は重いですが、非常にやりがいのある毎日です。

2 ハイチでの任務について

ハイチ派遣国際救援隊においては、施設中隊の小隊長として派遣間を通じて常に現場のリーダーとして、各種任務にあたりました。

特に、印象深いのは「国内避難民キャンプの補修作業」で、この現場では米海兵隊と協同作業により、避難民キャンプ内の側溝や土留め等の構築を実施しました。とにかく暑さとの戦いであり、気温40度近くの猛暑に耐えながら、「すべてはハイチの人の為に」という想いを胸に隊員と一丸となって任務を遂行しました。

3 防大で学んだ事が役立っていること

防大で学んだ事で役立ったことは、「協調性」と「柔軟性」の2点です。まず、「協調性」については、防大4年間の集団生活により「人と人とのつながり」がいかに重要かを体感した事によって、ハイチのような過酷な状況において抜群のチームワークで対応することが出来ました。

また、「柔軟性」においては、学業と訓練の両立により広い視野が養われた上、さらに語学においても高いレベルまで鍛えられたおかげで、今回のPKO派遣の様に他国の軍隊と協同連携する際にも、自信をもってコミュニケーションをとることができました。

4 最後に防大の4年間は、他の大学と比較すると、寮生活や外出時間等確かに多少の制約はあるかもしれませんが、それ以上に今後の人生に役立つ様々な事が修得でき、また生活を共にしたかけがえのない親友にも恵まれると思います。

さあ、防大で自分を磨きましょう！！



受験生へのメッセージ 第12施設群第335施設中隊 2等陸尉 岡本 剛史（51期）

私は平成19年の3月に防大を卒業し、4年目の現在、所属する中隊の訓練を統括する訓練幹部という職務と、実際に隊員を率いて行動する小隊長という職務を兼務しています。

この度は、ハイチ派遣という機会を与えられた防大卒業生として、その経験を受験生の皆さんに伝える機会をいただいたので、少し私の思うところを書いてみようと思います。

今回のハイチ派遣では多様な任務に就きましたが、気温 -20°C にもなる真冬の北海道から、気温 40°C を超えるハイチはその気候や文化、普段と異なる勤務環境から精神的、肉体的に決して楽なものではありませんでした。しかしその反面、沢山の人の笑顔に出会い、地球の裏側で「アリガトウ」と言われるなど、貴重で充実した経験を得ました。

また、普段の職務のみならず、海外での任務においても、防大で学び、培った責任感や行動力といったリーダーシップが非常に重要であると痛感しました。

受験生の皆さんは、今の私の姿を特別だと思いませんか。

「厳しい環境」と不安を煽られる防大、卒業後数年で海外での任務。これだけを聞けば特別に感じるかもしれません。しかし、私自身もかつては普通の受験生、そして今でも普通の人です。

もしも今、進路に迷いのある人は、特別な必要はありません。「厳しい環境」、関係ありません。大切なものは意志です。自分の気持ちに正直に選んでください。きっと貴重な経験が、充実した毎日が待っていると思います。

